

折に触れ 四字熟語

NO. 38 『春日遅遅』 しゅんじつ ちち

< 意味 > 春の日が長く、暮れるのが遅いさま。春の日がうららかでのどかなさま。

< 出典 > 「詩経」< 豳風 > 七月

・・・

七月流火	九月授衣	七月流火	九月衣を授く
春日載陽	有鳴倉庚	春日載て陽に	鳴く倉庚有り
女執懿筐	適彼微行	女は懿筐を執り	彼の微行に適って
爰求柔桑		爰に柔桑を求む	
春日遅遅	采芡祁祁	春日遅遅たり	芡を采ること祁祁たり
女心傷悲	殆及公子同歸	女心傷悲す	殆て公子と同く歸がん

・・・

通 釈： 七月には火星が西に傾き 九月には袷衣のしたく
 春の日ざしが暖かくなり うぐいすが鳴き始める
 娘は深い籠を持って 小径に添うて行き
 柔らかい桑の葉を摘む
 春の日はのどかに 芡を採る人々は野に満つる
 娘心のやるせなさ お姫さまと一緒にの頃に嫁入りしたい

語 釈： 「遅遅」は日が長く、のどかなさまをいう。「倉庚」うぐいすの類、黄鳥。「懿筐」深い底の竹かご。「微行」微は小、行は路。「芡」白よもぎ。「祁祁」人の多いこと。

一 言： 春シリーズその3

詩経は古代中国の風土社会を背景に、そこに生きる人々の生活を歌った最古の詩歌集です。その中で国風とは、周王朝の時代における諸侯の国々の民間に謡われた歌謡を集めたもので、「豳風」とは豳という国のそれです。

参照文献： 集英社 漢詩大系「詩経」上 三省堂「四字熟語辞典」